Role Model 05

高望みをせず、まずは今できることを精一杯楽しんでみよう！

山本恵子 九州看護福祉大学看護福祉学部教授

医療系（看護学）

わからないことを「知りたい」。追求しているうちに研究者へ

研究者というよりは、「患者さんのそばでケアをすることが好き」という気持ちがあり、今の仕事に就いています。

臨床現場で働いていた頃、治るはずの“骨折”で退院した高齢者の再入院が多く、「退院後の生活で何が起きているのだろう」と考えたのが、大学院進学のきっかけです。悩んでいた時、友人から「わからない頭で考えるより、わかる人に聞けばいい」と言われて、ハッとしたのもあります。そこで、働きながら大学院に進学することを決意。当事者である高齢者にインタビューをしたのが最初の研究でした。ですから「研究者になりたくてなった」というよりも、「わからないことを知りたくて」調べているうちに研究者になった……という感じですね。

高校時代のある出会いが進むべき将来を教えてくれた

高校生の時に、住民の相談に応じる保健師さんに出会い、「これだ！」と思い、保健師を目指して大学に入りました。その後は大学病院内で看護業務の保健師として働きました。現場では、退院後の生活を見越した支援を重視し、ケアを行っていました。

現在も“転倒”の研究を進めていますが、友人からは「自分が転びやすいからでしょ！」と言われ、ある意味自分でも納得。私もよく転ぶんですよね（笑）。「高齢者はなぜ転ぶのか」という疑問に始まり、現在は認知症の人が転倒しないように、現場のスタッフがどのような工夫をしているのか……などを研究しています。

高望みせず「今できることを少しでも楽しくやる」をモットーに仕事と向き合っています。例えば親や同僚が体調不良になり、予定の変更を余儀なくされても、まったく苦痛ではありません。なぜなら、私のために都合をつけてくれる人がいたから、今の自分があると思っているからです。みなさんも、今できることを精一杯やりましょう。**疲れたら「休んで」そして「また進む」。**これでいいと思います。

科研費の研究を支えてくれる共同研究者と研究協力者のメンバー

私に元気をくれるゼミ生。クリスマスバージョンではみんなサンタに変身！ホッとひと息

Keiko YAMAMOTO

看護学部 » 病院勤務（働きながら修士課程） » 大学教員（病院勤務と平衡して） » 大学教員 » 大学教員（働きながら博士課程）

頑張る自分は将来の自分の最大限の力になりますよ

One day

6:00	起床
7:00	大学へ
8:00	大学勤務
	講義・研究指導・実習
	会議など
19:00	終業
20:00	帰宅
21:30	就寝（早いのですが…）

◎座右の銘
後悔しない。期待しない
人生無駄はない
友達は大切に

profile

やまもとけいこ／北里大学看護学部看護学科卒業、東洋大学大学院社会学研究科社会福祉学専攻博士前期課程修了（社会福祉学修士）、広島大学大学院保健学研究科博士後期課程修了（看護学博士）。北里大学東病院勤務後、茨城県立医療大学保健医療学部看護学科で教鞭をとりながら茨城県立医療大学附属病院に勤務（ユニフィケーション）。聖隷クリストファー大学講師を経て、九州看護福祉大学教授となり現在に至る。

アンケートより

Q.仕事をする上で「女性」であることはプラス、それともマイナスですか？
プラス 23%　マイナス 13%　どちらでもない 64%